

## 「高校生ビジネスプラングランプリ」に挑戦を支援

～ビジネス支援はじめの一步～

静岡県立中央図書館

木村 知美

### 1. はじめに

私の勤務する静岡県立中央図書館は現在東静岡駅南口県有地への全館移転整備の計画が進行中である。『新県立中央図書館管理運営計画』(令和2年3月策定 令和3年9月更新)<sup>[1]</sup>では課題解決サービスについては重点的に提供するとしているが、「開館当初は健康・医療情報サービスと議会・行政支援サービスを中心に行う。ビジネス・産業支援サービスや法情報サービスなど、他の課題解決型サービスのテーマについても、情勢を踏まえながら取り組んでいく。」としている。今後サービス計画を策定していく予定であるが、将来的にはビジネス支援についても視野に入れていく必要があり、自分自身の視野を広げたいという思いからこの講習会に参加した。

以前は当館にもビジネス支援コーナーがあり積極的に行っていた時期もあったが、現在は特別なことはしていない。本講習会を受講し、またははじめの一步を踏み出す必要があることを実感した。何から始められるだろうと迷走する中で、オンデマンド講習の事前課題で「高校生ビジネスプラングランプリ」のことを知った。高校生が一人またはグループで、地域の課題に着目し、他業種をつなげる役割を果たし、さらには地域を巻き込み、利益も生み出す持続可能なプランを実現していて、どのプランの発表も素晴らしかった。静岡県内の高等学校が以前から多数参加していて、地域の特産品を活用したプランや地域の課題解決に取り組んでいる事例がある。また、広島市立図書館の実践事例を見て、はじめの一步はここから挑戦してみたいと考えた。

### 2. 静岡県の現状と課題

#### (1) 静岡県の現状

静岡県の面積は 7,777.43 km<sup>2</sup> (全国で 13 位)、東西に長く、23 市 12 町からなる。歴史的には、伊豆、駿河、遠江の 3 国から成立しており、現在も富士川、大井川を境にして、東部、中部、西部の 3 つの地域に区分される。

気候は、月平均気温の平年値は 16.5 度で、北部部山岳地帯を除けば全般的に温暖な海洋性気候で、冬は乾燥して晴天が多く、平地では雪もあまり見られない。

人口は 3,633,202 人 (令和 2 年国勢調査人口等基本集計)<sup>[2]</sup> で、全国で 10 位であるが、外国籍人口が 110,354 人で、全国で 7 番目 (2023 年 6 月末) に多い。

主要産業は西部の方では自動車や二輪車などの製造業がさかんな「ものづくり県」である。東部の御殿場、裾野、三島、沼津では首都圏からの交通アクセスがよいことや富士山の豊富

な湧水を利用できることから、大手メーカーの工場がある。また、富士地域のパルプ・紙・紙加工品の出荷額は全国屈指である。全国トップクラスのシェアを占める品目は自動車部品や二輪車、茶系飲料、ツナ缶、化粧品、医療機器、ピアノ、プラモデルなど多岐にわたる。

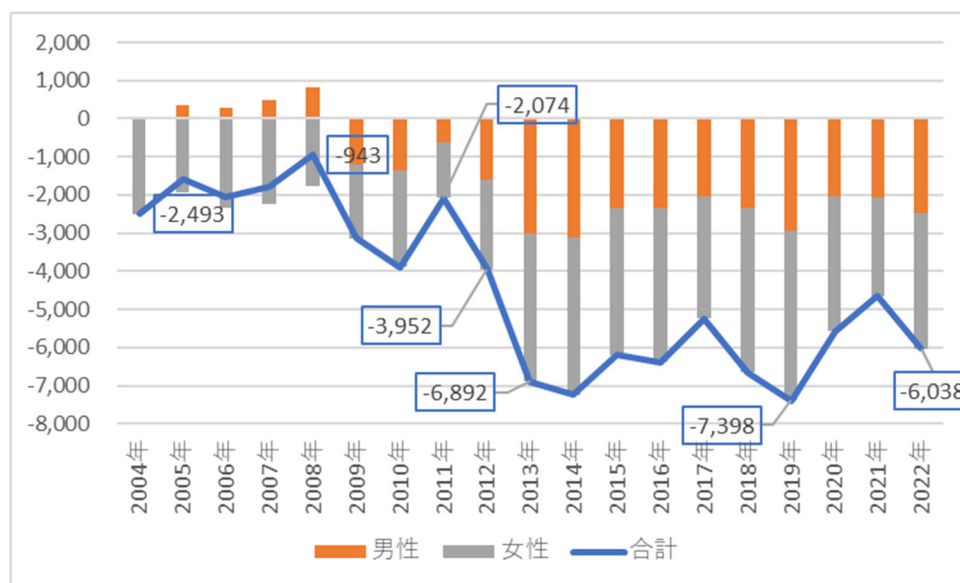
恵まれた自然環境を背景に様々な農林水産業もさかんで、茶、みかん、メロン、かつお、まぐろ、さくらえび、わさび等が有名である。

東部を中心に、富士山や伊豆半島には全国的に有名な温泉等の観光地があり、旅館ホテルの営業施設は東京都、沖縄、北海道に次いで多いなど、「観光県」でもある。<sup>[3]</sup>

## (2) 課題

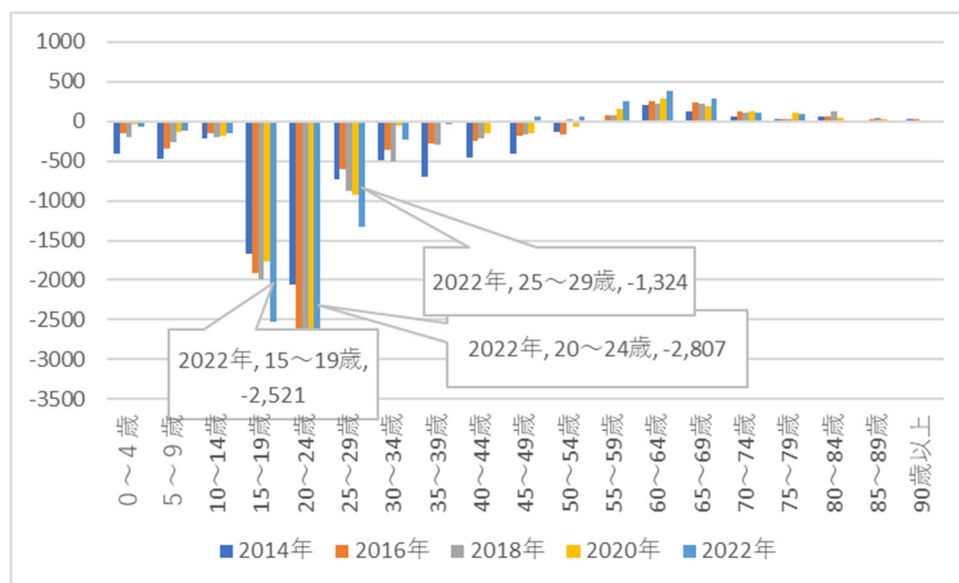
人口減少は社会全体の課題であるが、住民基本台帳人口移動報告によると、静岡県では2004年から2008年までは男性は転入超過であったが、2009年からは男女ともに転出超過に転じ、2013年からは6,000人を超える転出超過が続いている。(表1)令和4年度は6,038人(日本人移動者)の転出超過であった。また、年齢別にみると、年齢区分「20～24歳」の県外流出の多さが課題となっている。やはり、進学や就職で静岡県を離れていく若者が多い。(表2)製造業の多い西部地域では労働力不足を外国人労働者に頼っている。<sup>[5]</sup>

表1 静岡県における転入者数－転出者数の推移



(「住民基本台帳人口移動報告 第5表男女別転入超過数－全国、都道府県、大都市(昭和29年～)」より筆者作成 )

表2 静岡県における年齢別転入超過数（静岡県）（2014,2016,2018,2020,2022年）



（「住民基本台帳人口移動報告 年報（基本集計）」より筆者作成）

消費人口の減少によって、地元商業や病院、飲食等の生活を支えるサービスの維持が難しくなる。最近でも山間地域の引佐赤十字病院が令和7年3月末をもって閉院するニュースがあった。バス路線などの公共交通機関の撤退や縮小の影響がすでに出ている地域もある。高齢人口が増加して医療や介護の需要が増えても、それを支える人が減少するなどの県民の社会的な生活に負の影響を及ぼす。

令和元年度第1回美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議の資料5「若年層の県外転出者に対する意識調査」<sup>[6]</sup>によれば、転出のきっかけとしては、大学進学が58.1%が最も多く、次に就職が34%と続く。また、静岡県に戻らなかった理由は「やりたい仕事や勤め先がなかった」41.6%がトップで、以下に続く「給与水準の高い仕事があった」（27.2%）、「交通アクセスが十分でなかった」（19.0%）を大きく上回る。

そこで、これから進路を考えていく高校生の時期に、地域の課題に目を向けて自ら課題解決の経験となる「高校生ビジネスプラングランプリ」への挑戦を支援したい。

### 3. 事業案について

#### (1) 概要

静岡県立中央図書館の専門書を中心とした調べるための資料や統計資料、豊富な地域資料と県内ネットワーク、レファレンスの力を生かして、静岡県内の高校生が「ビジネスプラングランプリ」に挑戦することを支援する。

#### (2) 目的

静岡県内の高校生が「高校生ビジネスプラングランプリ」への挑戦を通して、地域の課題を見つけて、解決策を考えて提案し、地域の良さを発見する機会を創ることができるよ

う支援する。この挑戦により、将来的に静岡県で仕事をしよう、地域に貢献しようと思う高校生が増え、魅力的な会社や仕事の機会の増加やスタートアップ企業が生まれる可能性につながっていくことが期待できる。

静岡県では実業高校を中心に「高校生ビジネスプラングランプリ」に参加して、好成績を収めている高等学校もあるが、県内図書館が作成講座を開催している例はほとんどない。県立図書館が支援することで、県立図書館の図書館員と資料が課題解決に役に立つことを県民に知ってもらう機会になる。また、県立図書館が動き出すことで、県内公共図書館にも課題解決サービスが広がり、県民の生活や仕事に役立つ機会が増えることにつながる。

### (3) 対象

静岡県内の参加歴のある高等学校に声をかけるところから始める。探究学習に力を入れている高等学校も増えていることから、当館での企画展示や講座の実績を積んで、少しずつ声をかける範囲を広げていくことを目標とする。

### (4) 内容

#### (ア) 高校生のためのビジネスプラングランプリの企画展示

参加歴のある高等学校に声をかけて、「高校生ビジネスプラングランプリ」のプランのパネル展示を行い、実際の高校生のビジネスプランを広く知ってもらう機会を作る。

#### (イ) 高校生のためのビジネスプラン作成講座の開催

日本政策金融公庫の出張授業を活用した高校生のためのビジネスプラン作成講座を図書館で開催し、当図書館の利用講座、利用案内を合わせて行う。

事前に参加歴のある学校や多くの実績のある高等学校の教員、実施実績のある図書館から必要な資料や利用講座の内容についての情報を収集する。不足する資料については購入し、図書館の利用講座を作成する。市場情報評価ナビ MieNa データベースの予算要求をする。

初めての実施になるので、近隣の高等学校や、静岡県教育委員会高校教育課にも積極的に相談や広報に出かけていくことが必須である。

#### (ウ) ビジネスプラン発表会の開催

講座開催後は、藤枝市立駅南図書館で藤枝市、焼津市の 8 校が発表会を行っている事例を参考に、当館でも発表会を行う。

(ア) の企画展示と (イ) の作成講座は 1 年目から行っていく。

### (5) 期待できる効果

高校生が自分の地域の課題に目を向け、解決する探究活動をすることで、自分や地域の将来を考える機会になる。地元での進学や就職には直接的にはつながらないかもしれないが、将来的に地域に貢献したい、活躍したいと思う若者が育つきっかけになりうる。また、高校生の挑戦に地域の人や企業を巻き込むことで地域の活性化につながっていく。

今年度の第11回「高校生ビジネスプラングランプリ」で審査員特別賞を受賞した伊豆伊東高等学校のリーダーは「伊東から全国に仕組みを広げていくことが一つの目標だった。考案したプランをきっかけにヤングケアラーを知ってもらい、支援の輪をどんどん広げていけたらうれしい」と述べている。<sup>[7]</sup> また、2022年の同コンテストでは選外となったが、日本経済大学（福岡県）主催のビジネスプランコンテストで二位となったグループのリーダーは「いったんは大学に進学するがいつかは伊東市役所で働いて地域活性に貢献できるようになりたい」<sup>[8]</sup> と将来を見据えている。この経験が生徒の視野を広げ、少なからず進路選択にも影響を与えていることがわかる。

#### 4. 今後に向けて

本講習会では、講義の内容も初めて知ることが多く、たくさんの学びがあった。参加者はビジネス支援を実施している図書館の方がほとんどで、ワークショップでは他館の実践事例に刺激を受けた。講義を受けていく中で、当館で何から始められるだろうということばかり考えていた。この事業案はすでに実施されている図書館も多く、目新しさはない。しかし、ゼロから図書館内のビジネス支援サービスへの機運を高めるのはそう簡単ではない。また、この事業は日本政策金融公庫の協力と高等学校との連携が必要である。

常世田理事長の図書館員の意識改革の講義で、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の「(三) 地域の課題に対応したサービス」は「(四) 利用者に対応したサービス」より高い位置づけであり、やらなくてはいけないことなのだと改めて認識した。(四) は対象者別サービスとして館内組織に担当としての位置づけがあるが、(三) の課題解決サービスについても同様に館内組織として担当として位置づけて、持続可能でなければいけない。

また、豊田先生の「図書館の価値を伝えるアドボカシー活動」の講義では、図書館のサービスや事業を考えるときの主語がいつも図書館になっていることを痛感した。主語を図書館ユーザーにしてストーリーを組み立てる手法を身に着けて、統計数字ではなく、たくさんのストーリーで、図書館の価値を伝えられるようにしたい。図書館ユーザーがやりたいこと、見つけたいこと、行動したいことのために図書館を利用する。問いは図書館ユーザーの中にあり、答えは図書館ユーザーが見つかる。図書館ができることはサポートである。「主語は図書館ユーザー」の視点は、今後もずっと大切にしたい。

今年度の当館の利用者アンケートでは来館目的は仕事上の調べものである人が17.9%であった。<sup>[9]</sup> 当館でもレファレンスはどんな質問でも受ける姿勢は職員の共通認識として持っている。本講習会のレファレンスの講義で紹介された必要な資料はそろっているが、あまり利用されていない。これでは大変もったいない。「仕事のことで探していることを何でも聞いてください」という姿勢を見せていくことが必要だと感じた。

今後に向けて、館内での課題解決サービスを担当する体制づくりや理解を深めていく。その一つとして、継続的にこの講習会に職員が参加できるように求めていく。新図書館ではテ

ーンズサービスも新たに始める予定で、探究学習や学校支援にも力を入れていく計画がある。「あってよかった」と思ってもらえる図書館を目指して、今回提案の「高校生ビジネスプラングランプリへの挑戦」への支援を学校支援と当館のビジネス支援の始まりのきっかけとしたい。

#### 【参考資料】

- (1) 新静岡県立中央図書館管理運営計画

[https://www.pref.shizuoka.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/031/927/kanriuneir0309.pdf](https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/031/927/kanriuneir0309.pdf)

- (2) 令和2年国勢調査（人口等基本集計結果）～静岡県の概要～

<https://toukei.pref.shizuoka.jp/jinkoushugyouhan/data/02-010/documents/kokuseijinkougaiyou2020.pdf>

- (3) 静岡県の産業・金融面の概要（日本銀行静岡支店）2015年9月

<https://www3.boj.or.jp/shizuoka/03kengaiyou/0311kengaiyou.pdf>（現在参照不可）  
（参照 2024-03-03）

- (4) 住民基本台帳人口移動報告 2023年（令和5年）結果

<https://www.stat.go.jp/data/idou/2023np/jissu/youyaku/index.html>

- (5) 静岡県外国人労働者実態調査

[https://www.pref.shizuoka.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/015/556/roudousyatyosa.pdf](https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/015/556/roudousyatyosa.pdf)

- (6) 令和元年度第1回美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議

[https://www.pref.shizuoka.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/011/486/05-siryou5-190821.pdf](https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/011/486/05-siryou5-190821.pdf)

- (7) 「この人」 静岡新聞 令和6年2月3日（土）朝刊 14p

- (8) 伊東商高生3案がベスト100入り 日本公庫 ビジネスプランコンテスト 干物、ブランドトマトなどに注目

東京新聞 2022年12月26日 朝刊 17p

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/222116>

- (9) 令和5年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果

[https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/assets/r5\\_anq.pdf](https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/assets/r5_anq.pdf)